

時流 課題 十項目の提言

鷹巣荘改築にポンと3億円

福井市蓑町にある国民宿舎・鷹巣荘。福井市は地下1階、地上3階建、客室22室、定員92名の建物を、3階部分を減築したうえで耐震補強とリニューアルをし、定員4人の客室11室、6人を1室とし客室にはトイレを設け計12室を予定、14年11月竣工を目指す。13年度から2か年で継続費3億3千万円を予算化した。

福井市が過去に広大な敷地を観光公園として民間より取得した。昨年福井市は太陽光発電を計画し、この長年塩漬けになっていた土地を民間企業に委ねて、わずかな地代を得ることに決まった。太陽光発電には地元住民の反対もあつて、今回鷹巣荘を取り壊し、一部の議員と地元建設業社の一望もあり大幅な改築に至つたと聞く。

地元の要望は最低限温浴室という。福井市は地元の自治会と商工会には伝え、説明したが、地元の旅館組合には説明がなかった。3億の税金を使い建て直しての宿泊施設は民営を圧迫することとなる。

現在までの指定管理者は(株)フードサービス代表者・

芝寿司福井店店長の北野耕一氏で、建替え後の新しくなった鷹巣荘は指定管理者を決めるのに各業者から公募を行うと聞くが、フードサービスで概ね決まりだろう。3月議会

で堀川、田村、中村、片屋、奥島議員が理事者へ反対する質問もあつた。

芝寿司福井店代表でありフードサービス代表の北野耕一氏は、平成17年10月より鷹巣荘の運営管理業務を福井市より受託し、続いてスカットランド九頭竜、みらくる亭他6施設を各自治体より任せられ、管理運営を行っている。長年に亘り政治家・行政との癒着が囁かれ、今回の改修事業も約10年に亘る間柄故に、「北野氏が理事者への進言を基に計画されたのではないか。市民無視の慣れ合い。改修後も指定管理者は北野が指定席だよ」と、一部の市議は嘆いている。



財政を脅かす爆弾「箱物」

「平成の大合併」は人口減少と少子高齢化を見据え、合併によって財政の効率化を図るという趣旨だった。合併直前に、旧清水町、美山町、越廼村は急きよ箱物を含む公共施設を造り、それらの統廃合を怠った。更に、合併後も実態は合併特例債を活用する老朽化した公共施設の改築、学校の新設など箱物建設から抜け出せない。

教育委員会、市民、福祉保健、商工労働、農林水産、建設、上下水道、企業部(課)、競輪、簡易水道、宅地造成、中央卸売市場、駐車場、集落排水、生活排水、駅周辺整備など多岐に渡る縦割りの施設管理であり、将来の人口減少を見据えた適正な職員配置や公共施設の統廃合は手付かず。宿泊温泉施設スカットラン

ドや水仙の里温泉、みらくる亭など立派な施設を保有している福井市が、3億とは…。近くに何か所も必要ないと、市民の声を聞く。土地、建物を民間に格安で売却するか無償提供すれば、固定資産税が収入になる。地域に偏り民営施設を



圧迫する観点からも市民全体の総意を考慮しているとは思われない。地域の实情に配慮した施設の統廃合と再配置などに取り組む必要がある。費用の大幅な削減と多くの施設の資産経営の観点からも各部、各課を横断するプロジェクトチームを結成し、行政の発想や慣例を脱ぎ捨て、人件費、公債費、

物件費、維持管理費を含めて財務管理を総合的に集中し、利用状況も含めて人員削減と施設運営の合理化を図る財政再建が今後重要となる。民間の経営と施設運用の発想を取り入れる時が来ている。観光、消防、福祉、教育、公園、集会施設、さらには本庁舎の維持管理、市役所隣駐車場、電話交換、設備管理、警備、清掃など個別の業務委託を建物全体一括委託することとコスト削減に繋がり、管理力は向上し細かいところまで

4町合併した坂井市は早くよりこれらの問題に取り組みしており、一方大野市はこれまで各課が所管していた縦割りで保有、管理していた全ての公共施設を網羅的に掌握し、建設から30年が経過している施設から順次に行財政改革の中で見直しし、適正配置に向けた公共施設の再編方針に取り組みと発表した。

福井市の人口と世帯 (前月比)

総数 267,509人
 男 129,165人(-381)
 女 138,344人(-382)
 世帯数 97,805世帯
 (-80)

平成25年4月1日現在